



平成28年(2016年)12月期  
第3四半期

# 決算概要書

Funai Soken Holdings Inc. Investors Relations

株式会社 船井総研ホールディングス  
2016年11月4日(金)



## 1 エグゼクティブサマリー

- (1) 連結収益状況
- (2) 通期業績予想の修正について
- (3) 通期業績予想に対する進捗状況

## 2 2016年12月期第3四半期決算報告

- (1) セグメント別経営成績
- (2) 経営コンサルティング事業における業績動向
- (3) ロジスティクス事業における業績動向
- (4) 連結財務状況
- (5) 主なトピックス

## 3 株主還元について

## 参考 船井総合研究所のビジネスモデル

【本資料に関する注意事項】



# エグゼクティブサマリー

Funai Soken Holdings Inc. Investors Relations

# 1. エグゼクティブサマリー

## (1) 連結収益状況

	2015年9月		2016年9月		
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	前期比(%)
売上高	10,637	100.0	11,908	100.0	+ 11.9
営業利益	2,622	24.7	2,838	23.8	+ 8.2
経常利益	2,758	25.9	2,840	23.9	+ 3.0
四半期純利益	1,861	17.5	1,931	16.2	+ 3.8

売上高は、主力の経営コンサルティング事業およびロジスティクス事業が好調に推移し、**前期比11.9%増**と増収となる。

営業利益、経常利益もそれぞれ**前期比8.2%増**、**3.0%増**と揃って増益。

四半期純利益については1,931百万円となり、**前期比3.8%増**。

# 1. エグゼクティブサマリー

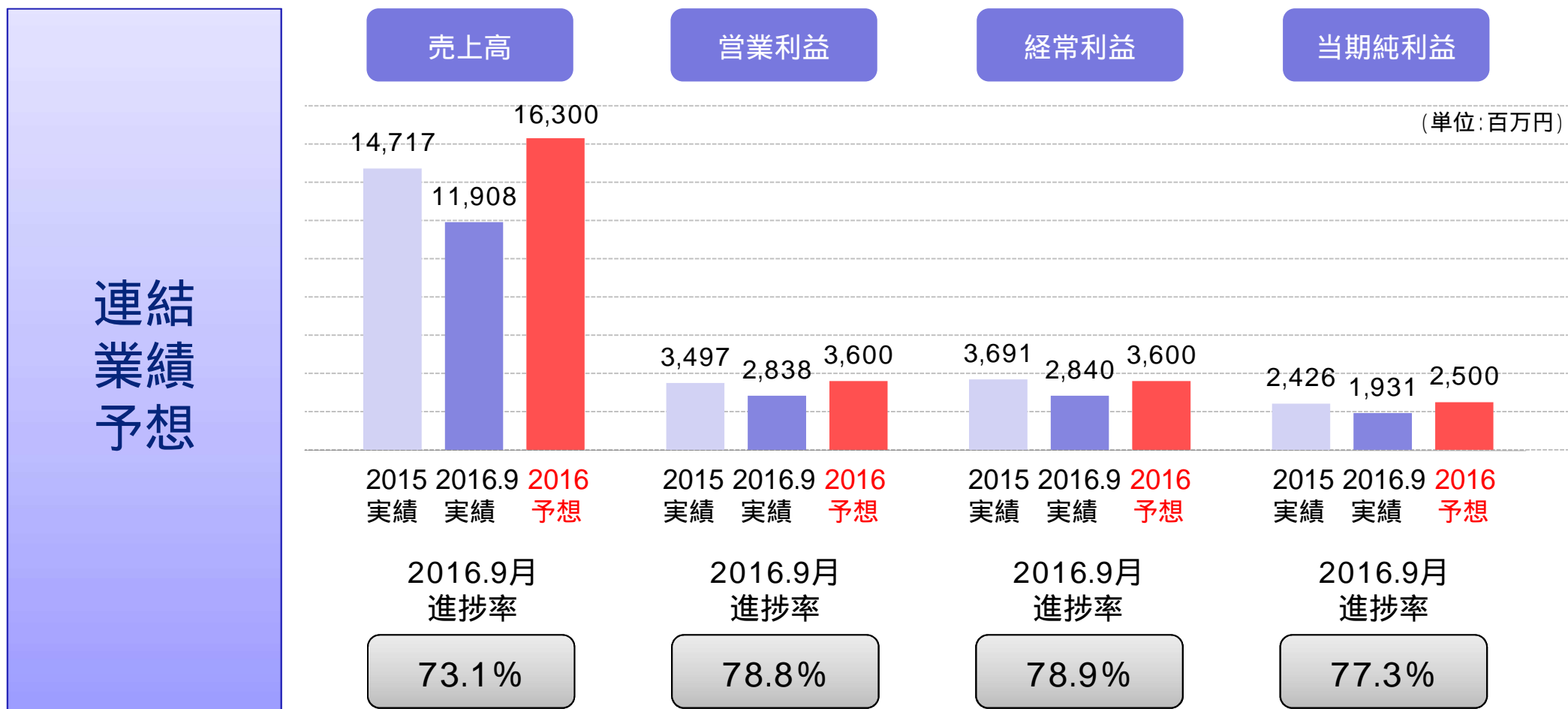
## (2) 通期業績予想の修正について

	2015年12月		2016年12月 (前回発表予想)		2016年12月 (今回修正予想)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
売上高	14,717	100.0	16,300	100.0	16,300	100.0
営業利益	3,497	23.8	3,900	23.9	<u>3,600</u>	<u>22.1</u>
経常利益	3,691	25.1	3,900	23.9	<u>3,600</u>	<u>22.1</u>
当期純利益	2,426	16.5	2,500	15.3	2,500	15.3


主力の経営コンサルティング事業におけるサービスの多様化に伴う売上原価の上昇により、同事業の利益が計画を下回る見込みとなったため、前回予想の修正を行いました(下線部)。

# 1. エグゼクティブサマリー

## (3) 通期業績予想に対する進捗状況



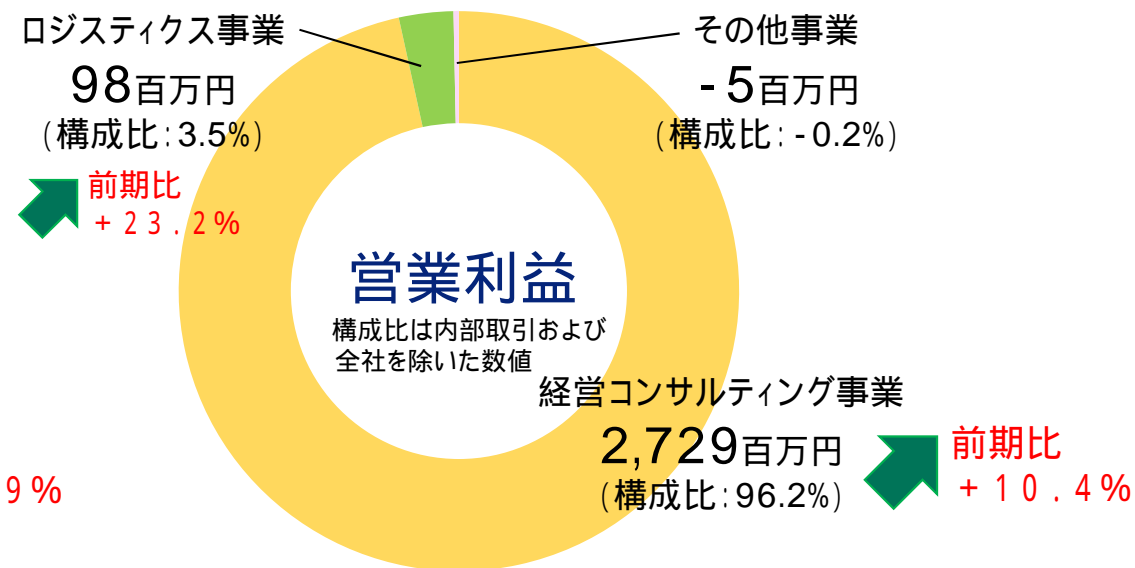
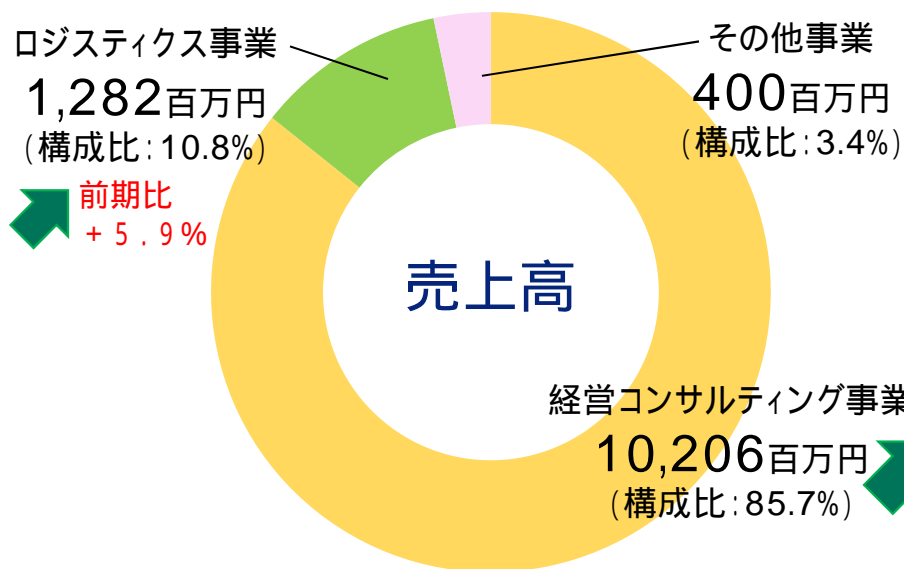
売上高に関しては、通期予想の163億円に対し進捗率73.1%、当期純利益に関しては、通期予想の25億円に対し進捗率77.3%で推移。



2016年12月期  
第3四半期決算報告

Funai Soken Holdings Inc. Investors Relations

(1) セグメント別経営成績



【売上高】	2015年9月		2016年9月	
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	前期比(%)
経営コンサルティング事業	9,118	9,118	10,206	+11.9
ロジスティクス事業	1,211	1,211	1,282	+5.9
その他事業	277	277	400	+44.2
(内部取引および全社)	29	29	18	
合計	10,637	10,637	11,908	+11.9

【営業利益】	2015年9月		2016年9月	
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	前期比(%)
経営コンサルティング事業	2,472	2,472	2,729	+10.4
ロジスティクス事業	80	80	98	+23.2
その他事業	-32	-32	-5	
(内部取引および全社)	102	102	14	
合計	2,622	2,622	2,838	+8.2

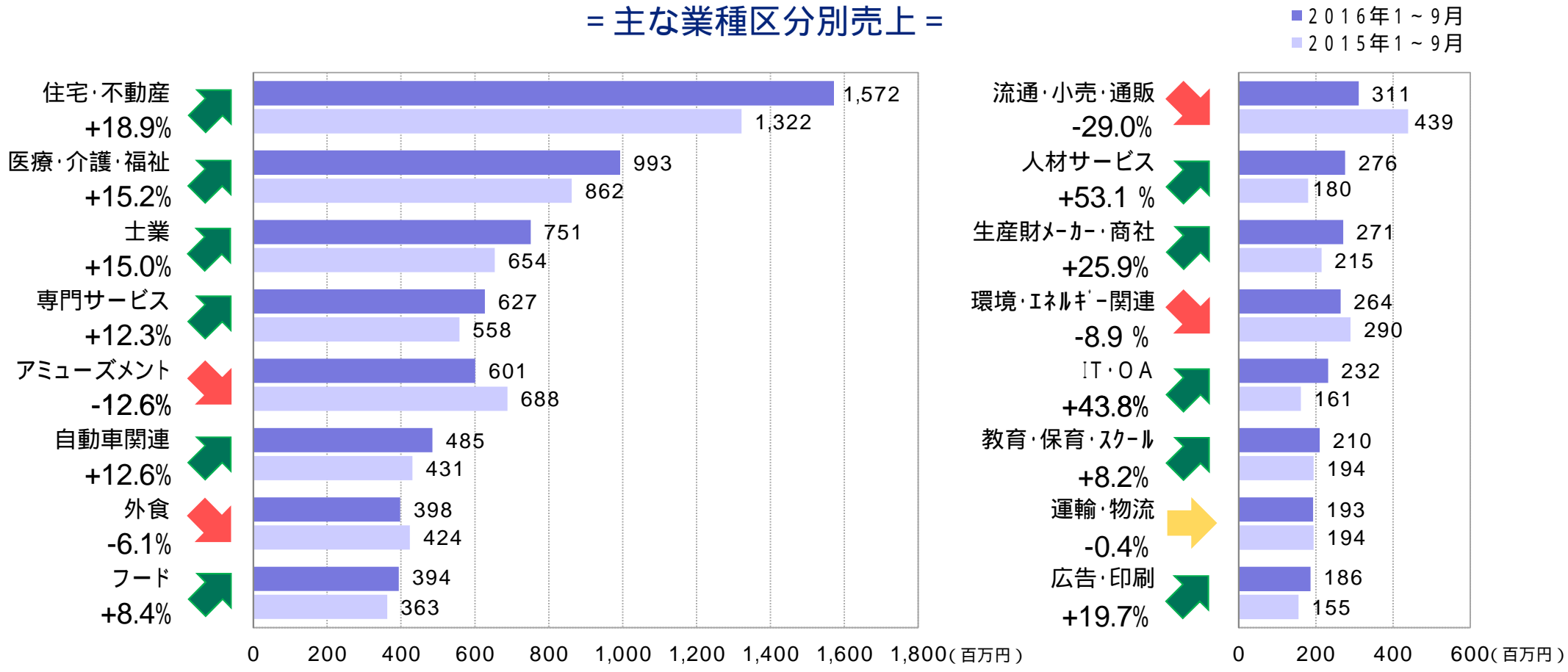
主力の経営コンサルティング事業については、今期も順調に業績を伸ばし、売上高で前期比11.9%増と好調に推移。

ロジスティクス事業を営む船井総研ロジも順調に業績を伸ばし、売上高で1,282百万円、営業利益で98百万円と増収増益となった。



(2) 経営コンサルティング事業における業績動向

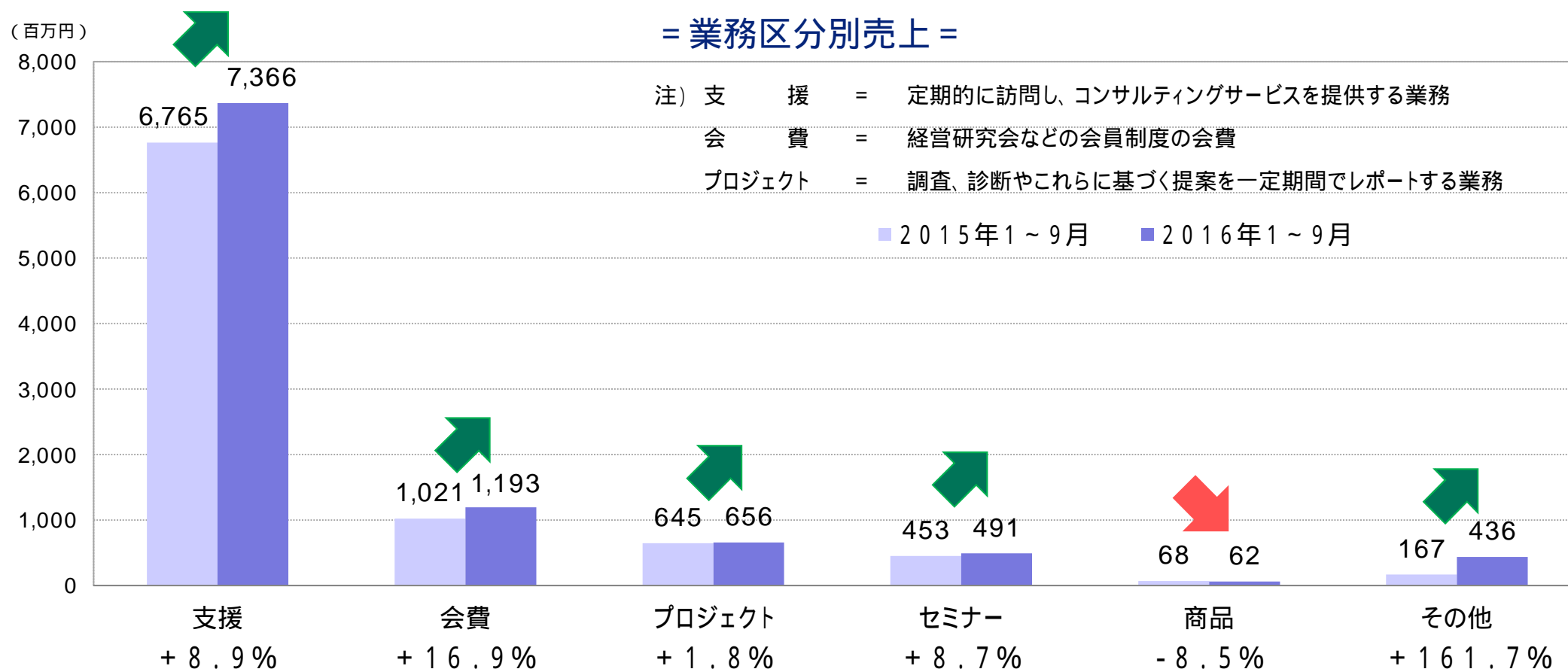
= 主な業種区分別売上 =



(注) 上記数値は、当社業種分類に基づいた2015年1~9月および2016年1~9月のコンサルティング契約の売上実績です。当第1四半期より、集計範囲をコンサルティング契約のみとし、1契約単位で業種区分別に集計する方法に変更しております。

当事業の主力部門である住宅・不動産業界、医療・介護・福祉業界および士業業界向けコンサルティング部門において引続き順調に売上を伸ばす。  
その他、専門サービス、自動車関連、人材サービス、生産財メーカー・商社、IT・OA業界向けのコンサルティングが好調。

## (2) 経営コンサルティング事業における業績動向



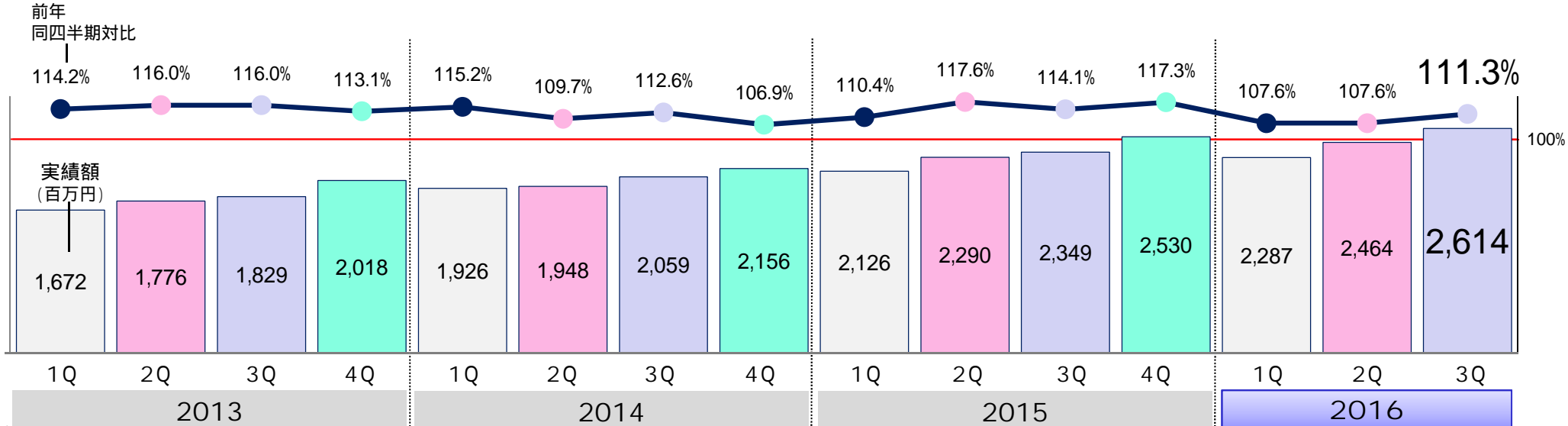
全体の7割を超える支援業務は、引続き好調に推移。

当事業の強みであり、重点施策の一つに位置付けている業種別経営研究会の主宰による会費収入も、順調に増加。

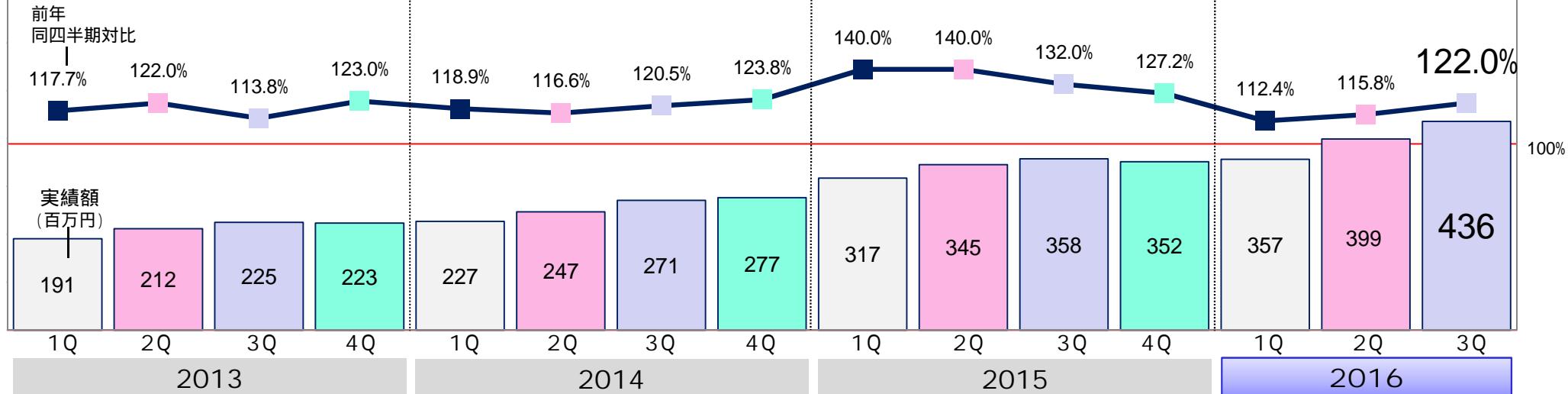
業種別経営研究会への入会をきっかけに支援(月次支援)契約に繋がる流れが、支援の売上増の一因となり、好循環を実現している。

(2) 経営コンサルティング事業における業績動向 = 支援・会費収入の四半期別売上高推移 =

支援



会費

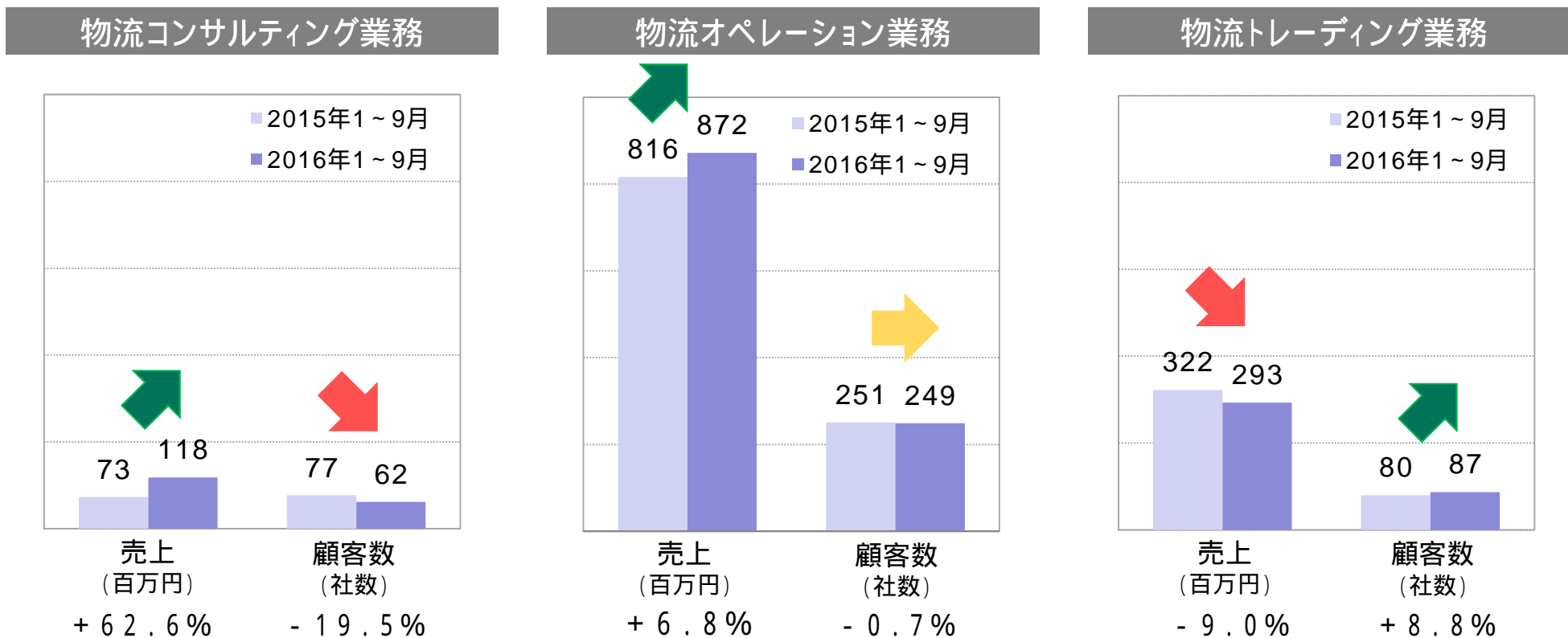


当事業の特徴は、安定的なストックビジネスモデルであり、支援業務・経営研究会会費収入は会員数の増加に伴い順調に拡大し続けている。

### (3) ロジスティクス事業における業績動向

#### 業務区分別売上および顧客数の推移

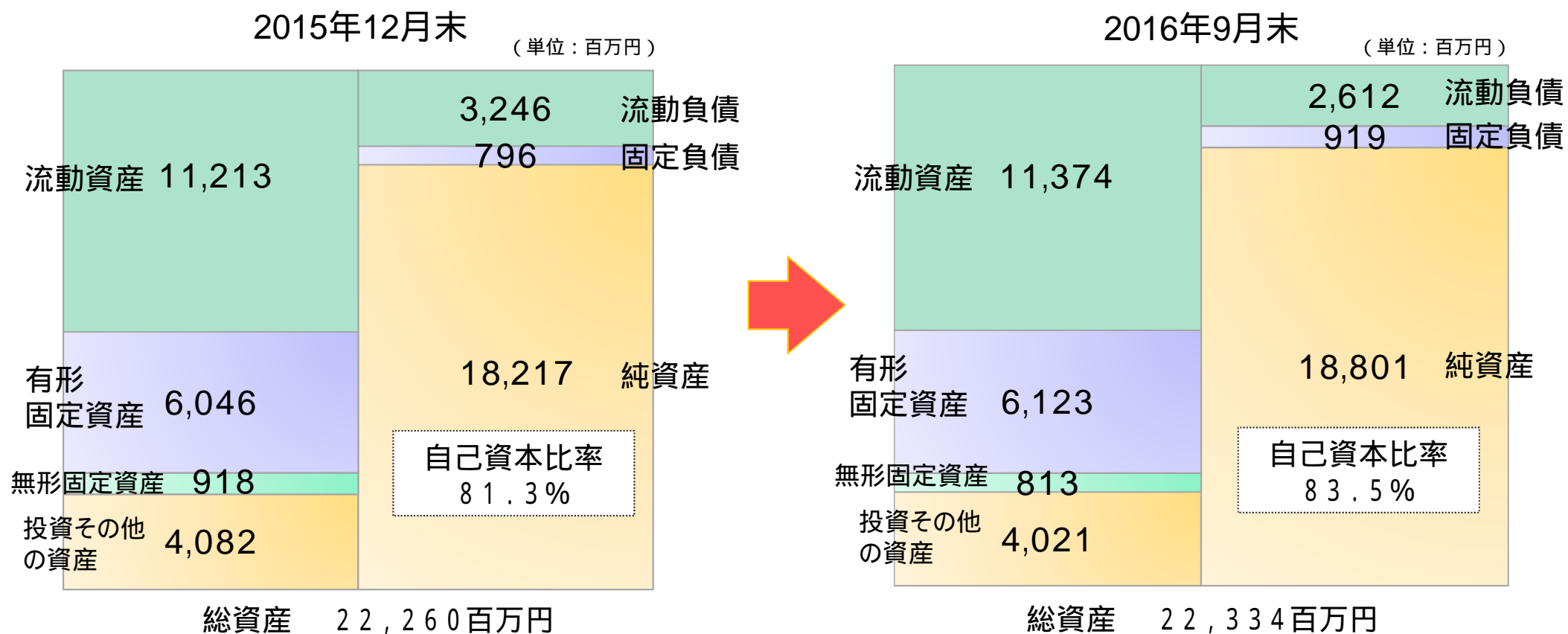
注) 物流コンサルティング業務・・・クライアントの物流コスト削減等を目的としたコンサルティングサービス  
 物流オペレーション業務・・・クライアントの物流業務の運用等を実行するサービス  
 物流トレーディング業務・・・クライアントの購買コスト削減等を共同購買で具現化するサービス



グループ内取引を除いた実績。顧客数は、1～9月の延べ社数を示している。

物流コンサルティング業務・・・大型案件受注が重なったため顧客数は減少したが、売上・利益はともに増加。  
 物流オペレーション業務・・・売上・利益増の主な要因は、既存顧客との契約が好調に継続したことによる。また新規顧客との輸配送業務も順調。  
 物流トレーディング業務・・・売上は価格下落の影響を受け減少しているが、顧客数・利益はともに増加。

(4) 連結財務状況 (要約貸借対照表)



2015年12月末からの増減額

流動資産

+ 161百万円

有形固定資産

+ 77百万円

無形固定資産

- 104百万円

投資その他の資産

- 60百万円

流動負債

- 633百万円

固定負債

+ 122百万円

純資産

+ 584百万円

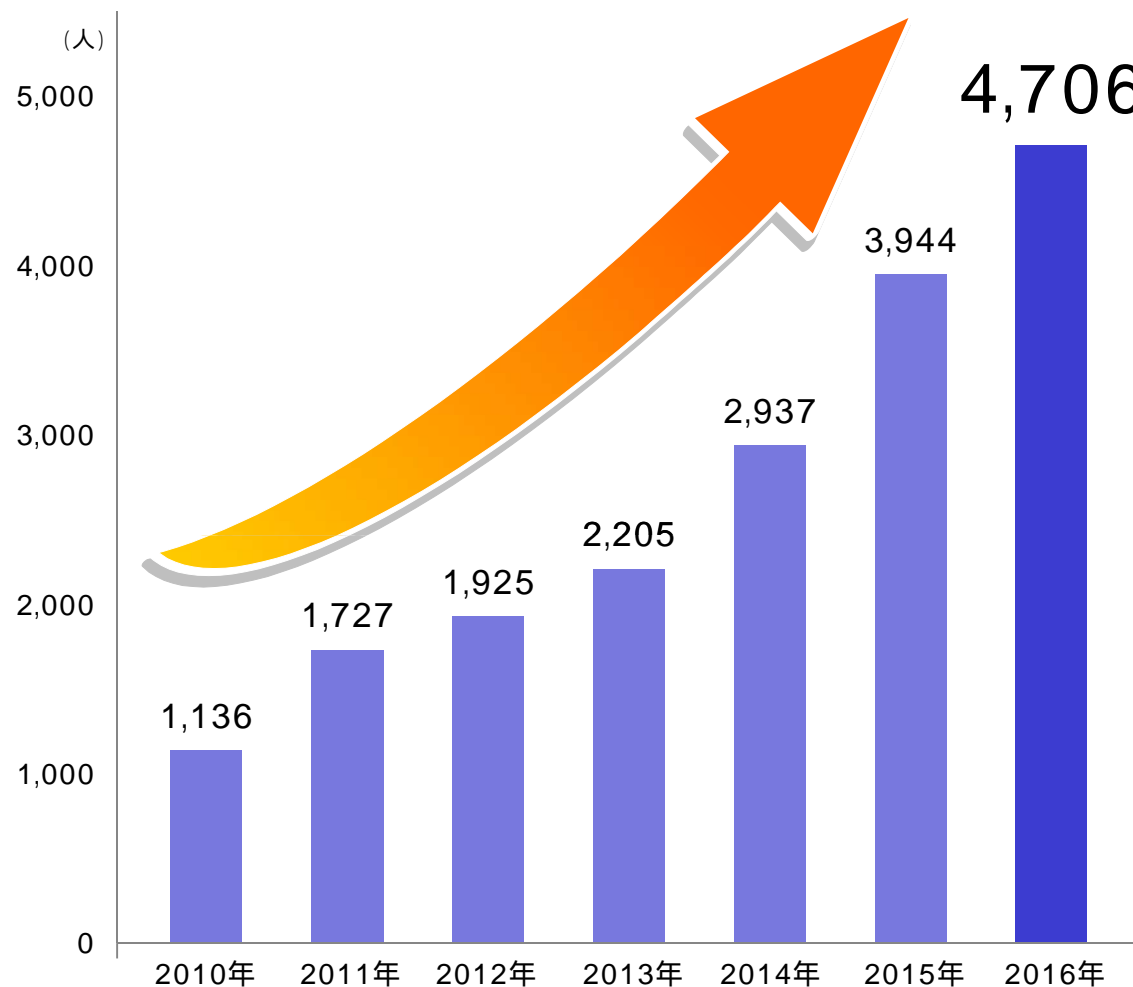
財務状況については、引き続き高い自己資本比率(83.5%)を維持しており、健全な状態にある。  
流動資産の増加は、主に現金及び預金が増加したことによるもの。  
流動負債の減少は、主に法人税の支払いによるもの。

## (5) 主なトピックス: 第90回経営戦略セミナーの開催について

## メインセミナー



## ビジネスパートナーフェア



8月に開催した当社グループ主催「第90回経営戦略セミナー」では3日間で延べ4,706名の経営者様が参加。当セミナーは、業種別経営研究会の全国大会としても位置付けており、全国から多数の経営研究会会員様が集まる当社グループ最大の経営セミナーとして定着。





# 株主還元について

Funai Soken Holdings Inc. Investors Relations

### 3. 株主還元について

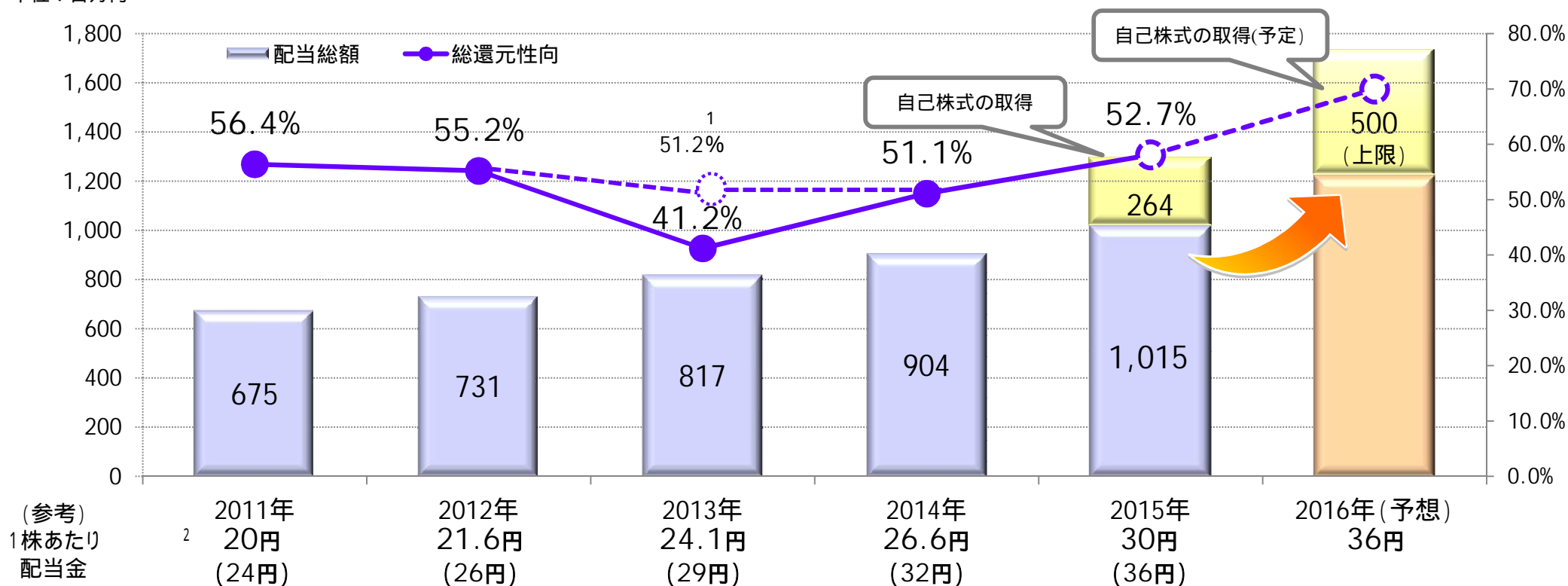
#### (1) 株主還元方針について

当社は、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様への適切な利益還元を行うべく、今後も業績を考慮しながら、「配当による還元」と「自己株式取得による還元」の双方を軸に株主還元を実施していきたいと考えております。

#### 総還元性向 について

当社は、今後も**配当総額を持続的に上げ続けたい**と考えており、**総還元性向として50%前後**を目安としてまいります。

単位：百万円



(1) 2013年実績における投資有価証券売却益及び法人税等の圧縮効果による影響額(約390百万円)を除いた場合の参考数値

(2) 2011年～2015年は、1.2分割を割り戻した配当金 ( )内に実際の配当金を記載



### 3. 株主還元について

#### (2) 自己株式取得の進捗状況について

当社は、2016年8月5日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。以下、2016年10月31日時点における進捗状況をお知らせいたします。

	2016年8月5日 取締役会決議内容	2016年10月31日時点の 進捗状況
取得対象株式の種類	普通株式	同左
取得しうる株式の総数	400,000株(上限) 発行済株式総数(自己株式を除く) に対する割合:1.2%	321,700株 (進捗率:80.4%)
株式の取得価額の総額	500,000,000円 (上限)	466,458,500円 (進捗率:93.3%)
取得期間	2016年8月8日 ~2016年12月30日	2016年8月8日 ~2016年10月31日

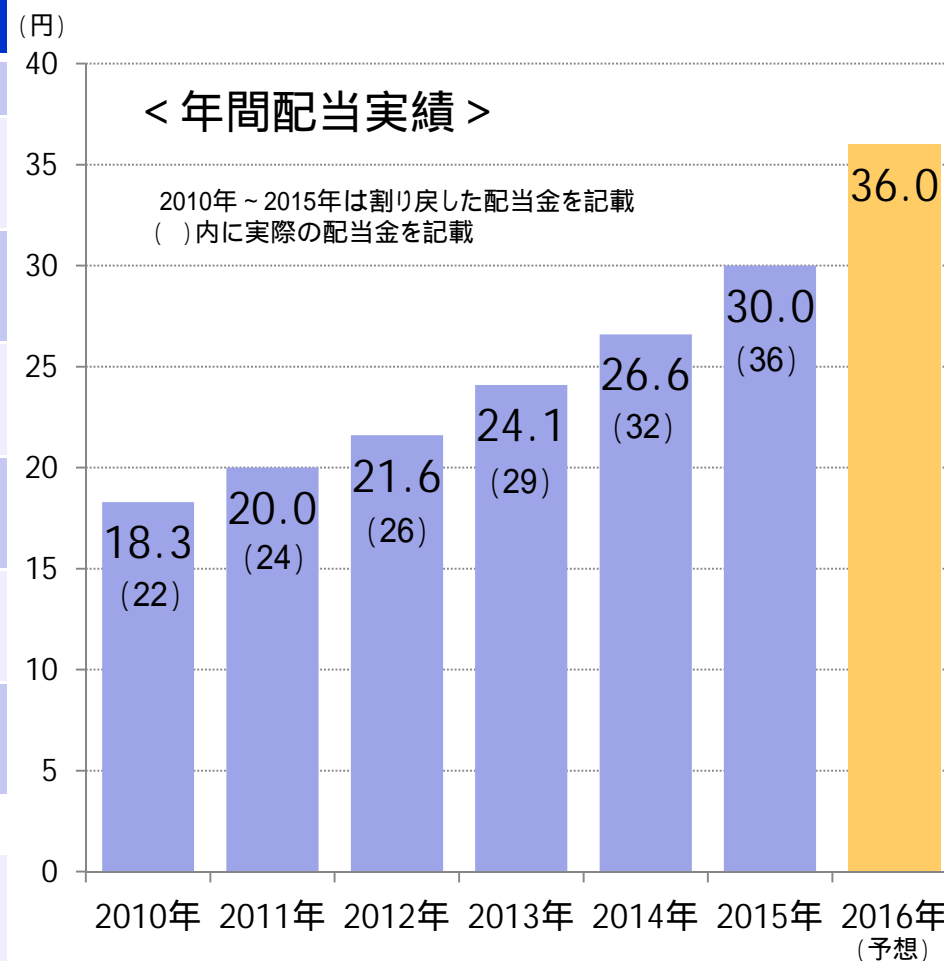
### 3. 株主還元について

#### (3) 配当について

基準日	当初予想		実績	
	配当金額	内訳	配当金額	内訳
2010年12月期	22.0	中間 10.0 期末 12.0	22.0	中間 10.0 期末 12.0
2011年12月期	23.0	中間 10.0 期末 13.0	24.0	中間 10.0 期末 14.0
2012年12月期	25.0	中間 10.0 期末 15.0	26.0	中間 10.0 期末 16.0
2013年12月期	27.0	中間 10.0 期末 17.0	29.0	中間 10.0 期末 19.0
2014年12月期	31.0	中間 15.0 期末 16.0	32.0	中間 15.0 期末 17.0
2015年12月期	34.0	中間 15.0 期末 19.0	36.0	中間 15.0 期末 21.0

(予想) 2016年1月1日に株式を1.2分割

2016年12月期	36.0	中間 15.0 期末 21.0		
-----------	------	--------------------	--	--



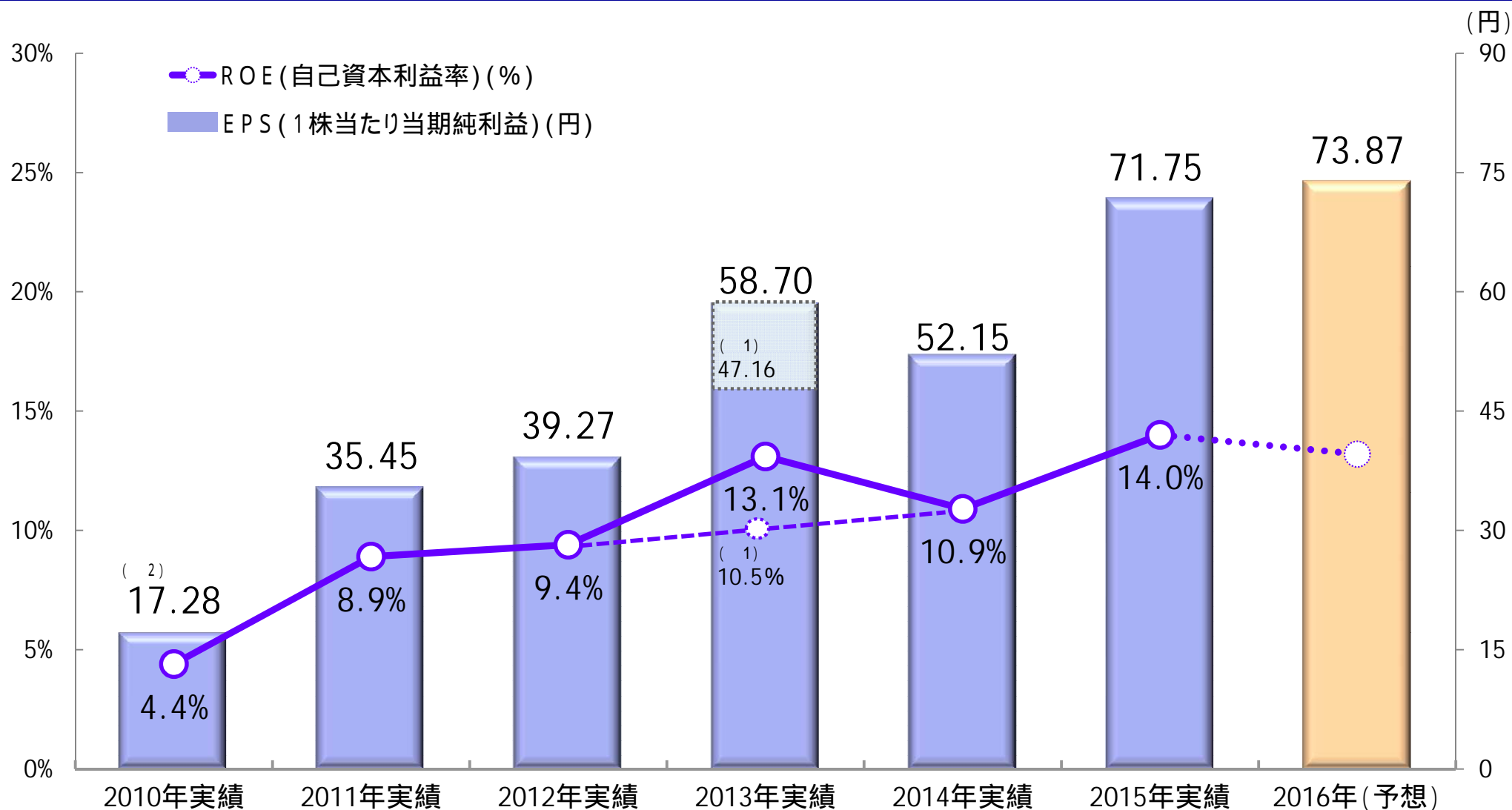
当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の最重要課題と認識しております。  
2016年12月期の配当は、中間15円、期末21円、年間36円を予定しております。

2015年12月期と2016年12月期の配当金予想が同額になっていますが、2015年12月期は株式分割前、2016年12月期は株式分割後の数字です。(2016年1月1日に株式を1株につき1.2分割しました)  
仮に株式分割を考慮した場合、2016年12月期は実質6円の増配となります。

### 3. 株主還元について


#### (4) 主要指標の推移

#### 主要経営指標の推移



( 1) 2013年実績における投資有価証券売却益及び法人税等の圧縮効果による影響額(約390百万円)を除いた場合の参考数値

( 2) 2016年1月1日に、1:1.2の株式分割を行っており、上記金額はすべて遡及修正後の金額であります



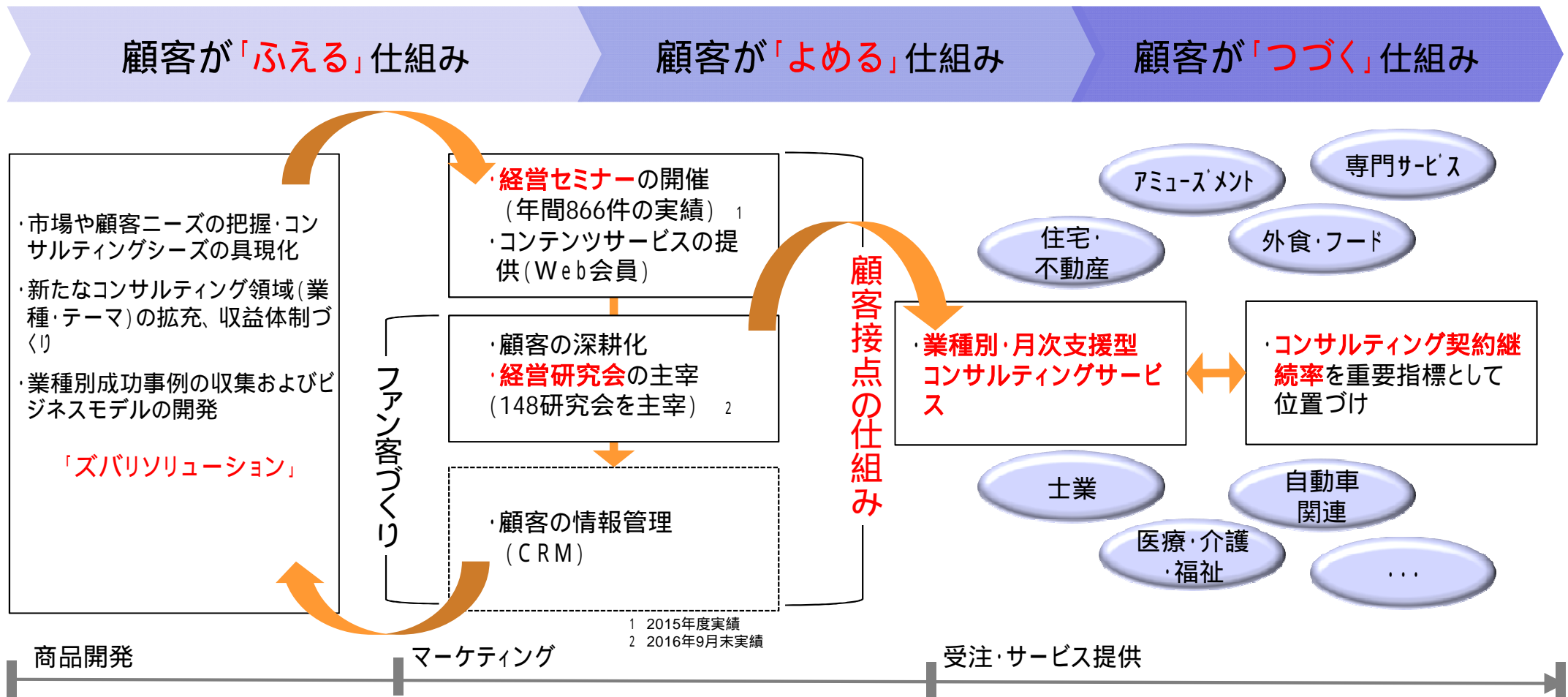
(参考)  
船井総合研究所  
のビジネスモデル

Funai Soken Holdings Inc. Investors Relations

# (参考) 船井総合研究所のビジネスモデル

## (1) 船井総合研究所が目指す「顧客ストック型」ビジネスについて

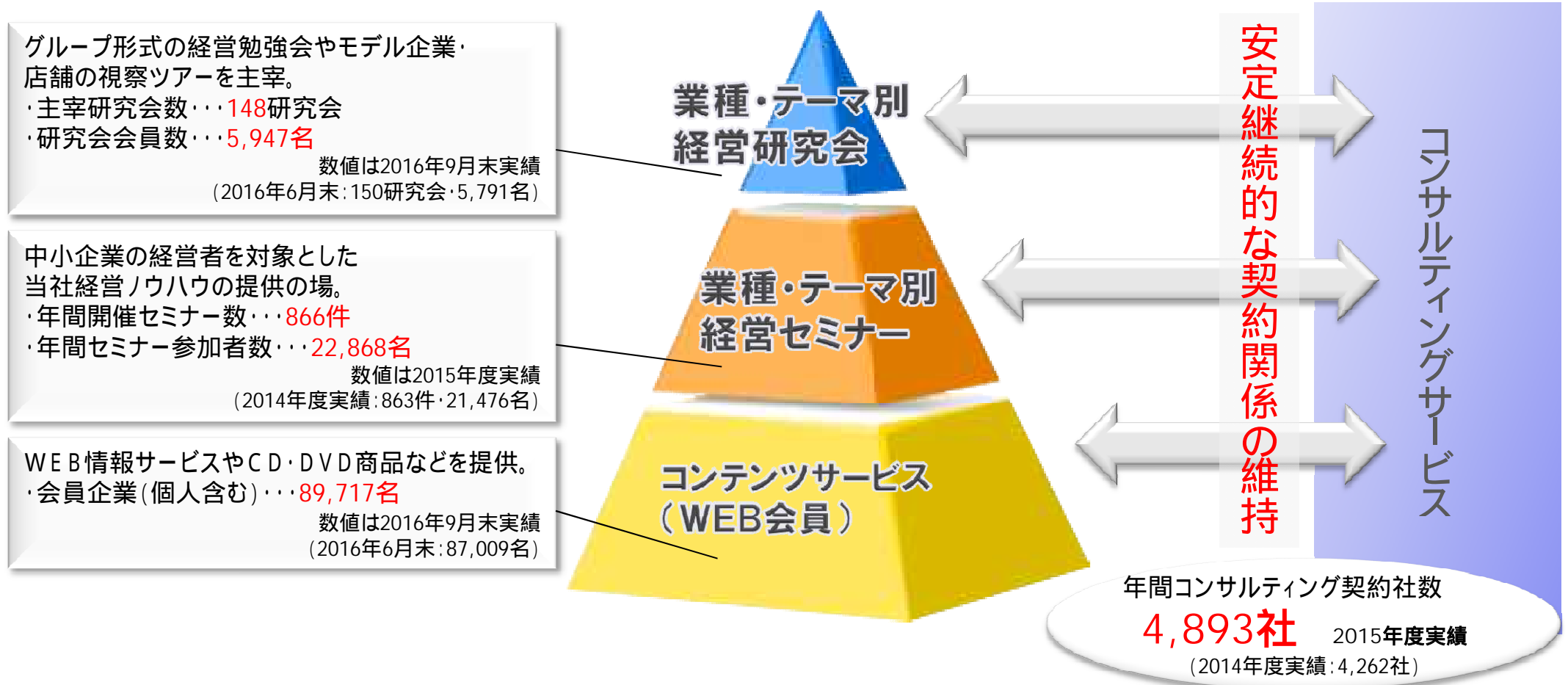
船井総合研究所のビジネスモデルは、業種・業界別のマーケットを対象に展開していく「顧客ストック型」ビジネスを志向し、その取り組みを続けております。  
その取り組みとして、「顧客がふえる」、「顧客がよめる」、「顧客がつづく」をキーワードに、今後もビジネスモデルの磨き込みに注力してまいります。



(参考) 船井総合研究所のビジネスモデル

(2) 船井総合研究所のビジネスモデル(顧客接点の仕組み)

数多くのセミナーの開催や業種・テーマ別の経営研究会の主宰、さらにはその裾野として、各種コンテンツサービスによる経営情報の提供の仕組みを構築しており、顧客との接点を密にとっております。結果、コンサルティングサービスにおいてお客様との安定継続的な契約関係の維持につながっております。





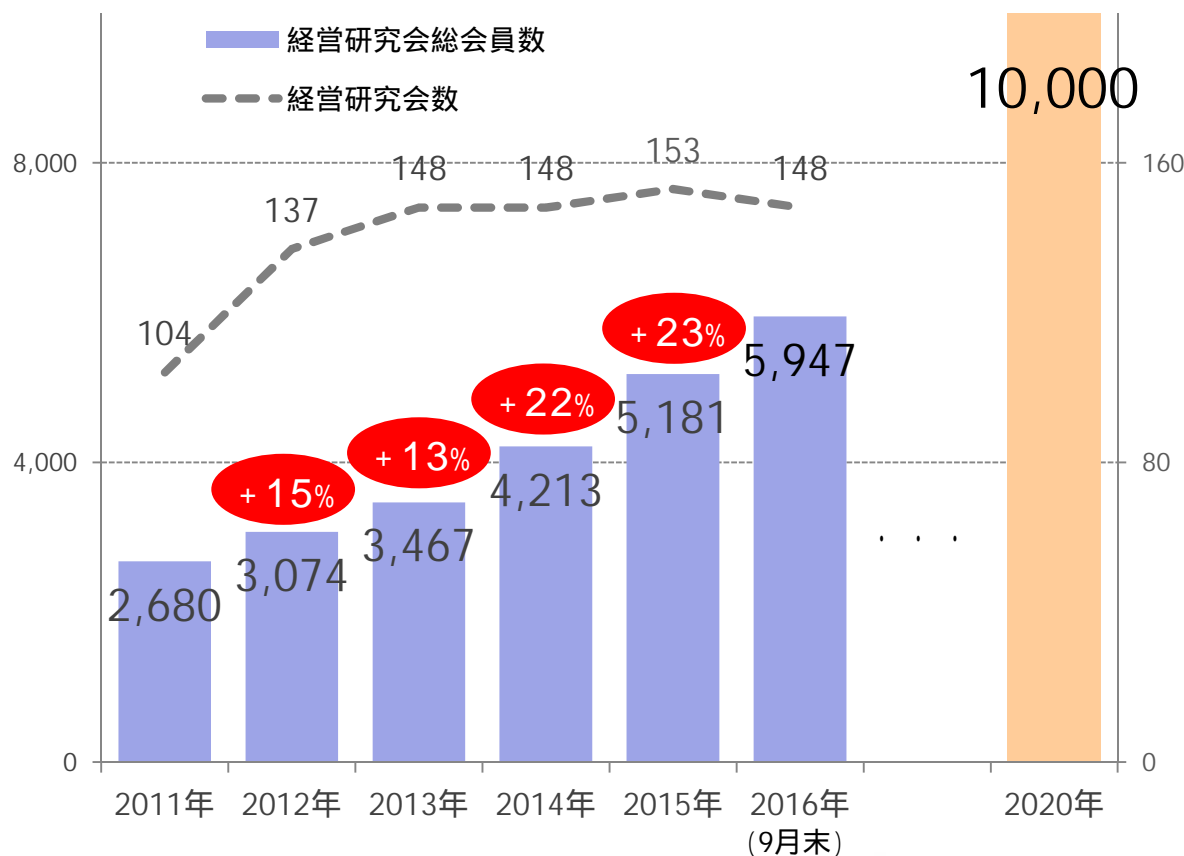
# (参考) 船井総合研究所のビジネスモデル

## (3) 経営研究会について

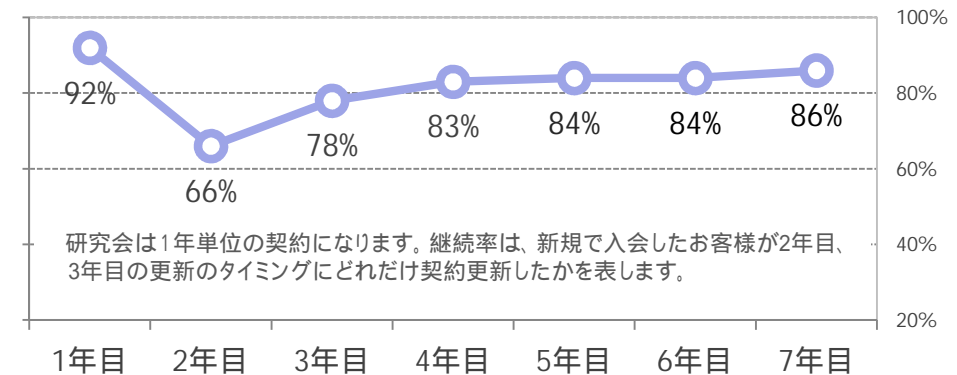
船井総合研究所の強みの一つとして、「経営研究会」の展開が挙げられます。会員様同士の業界・テーマ別の情報交換を活発に行い、ズバリソリューションの研究を行うなど、現在**148の経営研究会**が主宰され、合計**5,947名**の方々にご入会いただいております。

会員数の拡大と継続率アップは経営全体を牽引します。今後は、**2020年1万会員**の実現を目指し、さらに経営研究会の充実、発展に取り組んでまいります。

経営研究会数と会員数の推移



経営研究会継続率





## 私たちの約束

### 人・企業・社会の未来を創る

私たちは、船井総研グループに関わる人・企業、そして社会に対して、より良い未来を提案し、その実現を全力で支援していきます。

## 私たちの目指すもの

### 仕事を通じて、人と企業を幸せにする 常に社会に必要とされるグループ経営を目指す

私たちの目指すグループ経営とは、関係する人・企業を幸せにすることだと考えております。幸せを願う人や企業にとって必要なグループになることが、結果、常に社会に必要とされる存在になると考えております。



## 【本資料に関する注意事項】

本資料に掲載されております計画や見通し、戦略等は、現時点において入手可能な情報や合理的判断を根拠とする一定の前提条件に基づいた当社の判断による予測です。

従いまして実際の業績等は、今後の様々な要因により、これらの見通しとは大きく変動する場合があります。

本資料の掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた損害などに関し、当社は一切責任を負うものではありませんので、ご了承ください。

本資料は投資誘導を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願い致します。

### IRに関するお問い合わせ先

株式会社 船井総研ホールディングス

コーポレートコミュニケーション室 齊藤 英二郎

TEL: 03-6212-2923 FAX: 03-3216-0086

Mail: [ir@funaisoken.co.jp](mailto:ir@funaisoken.co.jp) URL: <http://hd.funaisoken.co.jp>